

政府見解で通産相あやまる

社会党の阿具根登氏（全国）は八月の参院商工委員会で、水俣病の政府見解発表問題を取り上げ「熊本の水俣病は十数年前の結論が政府の統一見解となった。発生当時厚生省は公害病と認定したのに企業の側に立って十数年間発表を抑えた通産省の責任はどうか」と追及した。これに対し椎名通産相は「原因分析の技術的方法で当時は未熟な点があった。企業の圧力で発表を抑えたのではなく確固とした結論が出せなかった。いずれにしても将来再びこの種の公害病が起きないように人間の公害は厚生省、農作物の公害は農林省の所管大臣の意見に従うのが正しいと思う。通産相として不明を深くわびたい」と頭を下げた。

また「すでに人命がそこなわれている事実がありながら原因が究明できないからといって被災者に待てというのは間違っている。まず官民協力して被災者の救済に当たるべきで、今回の水俣病問題をよい教訓としたい」と答えた。